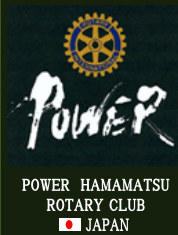


国際ロータリー第2620地区
静岡第5グループ



週報 パワー浜松ロータリークラブ

もう一步前へ！

RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ / 第 2620 地区ガバナー 稲葉雅之 / 会長 加藤恵司 / 幹事 鈴木 亮
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松内 Tel:053-452-0800
Email:info@power-hamamatsurc.jp http://www.power-hamamatsurc.jp
創立：2002 年 10 月 22 日 認証伝達式：2003 年 4 月 29 日 スポンサークラブ：浜松中 R C

よいことの
ために
手を取りあおう



Rotary

第1032回例会10月7日(火)AM7:30~8:30

- 会場：オークラクトシティホテル浜松 3 階 チェルシーの間
- 司会：井熊正浩 藤田光弘
- 点鐘：加藤恵司 ■週報：鈴木一広
- ロータリーソング：「奉仕の理想」
- ゲスト：無し
(※米山記念奨学生 杵・ウイさん インガルンガ 罹患につき欠席)

出席報告/スマイル報告

会員数 67 名 (内出席免除会員 3 名)
出席数 50 名 出席率 78.12%

スマイル提出者氏名掲載
高木一浩さん、高部光司さん
大石莉帆さん、熊谷真一さん
諸星圭吾さん、青空例会さん

会長挨拶 会長 加藤恵司

おはようございます。

本日は、長期戦略計画委員会の担当例会で「長期戦略について」考える例会となります。具体的には、「パワー浜松はこれを行っているクラブです」と言える「継続事業」をどう考えるか？となります。

次年度でクラブ発足 25 年を迎えますが、当クラブの「継続事業」は、なかなか決まらなかったのが現状です。わたしが会長を拝命するにあたり、一番頭を悩ましたのが長期戦略委員会の位置づけでした。今でも良くわかりません。ロータリークラブは、「One Year One Color」が原則で、毎事業年度会長幹事以下担当が変わります。そんな組織の中で「年度を跨ぐ継続事業」という考え方は相いれないものです。この水と油の様な考え方をどう折り合いをつけるのか？具体的には、その選定、決議の仕方、組織等どうあるべきかなどですが、私の頭では無理なので、高貝委員長の優秀な頭脳に丸投げ致しました。他クラブの取り組みも踏まえて一歩前へ進めればよいと考えています。本日もよろしくお願いいたします。



幹事報告 幹事 鈴木 亮

- ① 米山記念奨学会より 2025-26 年度版の「豆辞典」が届きました。レターケースへ配布しましたのでお受け取り下さい。
- ② 会費引落について、口座振替を提携されている方は今月 25 日に引き落とされます。お手数ですが前日までに残高のご確認をお願いします。請求書は例会後にオールパワーをしますので、必要な方はご利用ください。
- ③ 11 月 25 日の第 1037 回例会の会場は西山病院に変更となりました。
- ④ 本日ポール・ハリス・フェロー認証がございまして。ロータリー財団に 1,000 ドル以上寄付した方を称えるものです。表彰状と記念のピンが贈られます。

委員会報告

- 会員維持増強委員会 中野雄介副委員長
10 月 15 日開催の「秋のタベの交流会」では、ネームプレートの着用をお願いします。
会場では「投げ銭」を受け付けますが、事前の協賛金も受付けています。よろしくお願いします。
- 青少年育成委員会 中野雅一委員長
11 月 2 日の花のリレープロジェクトは 8 時 40 分気賀駅集合です。今年度は例会扱いです。
- ゴルフ同好会 河村公隆幹事
10 月 5 日に開催された今年度最初の青空例会は熊谷さんが優勝されました。
11 月 22 日には第 5 グループ親睦ゴルフ大会が開催されます。

■長期戦略計画委員会 高貝委員長(外国人児童の学習支援教室の紹介)

長期戦略には継続事業を持つことが大切で、最近では学習支援教室に関わっていますが、私の関与している外国人児童に対する学習支援のフィリピンナガイサとアラッセの2つを紹介いたします。

フィリピンナガイサは、設立されて約30年になる団体です。80年代から2000年代初頭には、フィリピンパブがたくさんありました。そこで従事するフィリピン人女性が、年間数万人の規模で『興行ビザ』で入国していました。また、最近では、フィリピンで生まれた日本国籍の子どもや、日系人も来日するようになりました。日本で暮らすフィリピン人女性たちが、互いに悩みの相談に乗ったり助け合うための互助会的な組織をつくりました。これがフィリピンナガイサです。そこに、心ある日本人のスタッフが加わり、発展してきました。毎週土曜日に南協働センターで学習支援教室（ハロハロ教室）が開催されています。現在では、かつて学習支援教室で学んだ大学生もボランティアスタッフとして活動するようになっています。

NPO アラッセは、ブラジル人の子どもが学ぶ場として2007年に立ち上げられ、ここも日本人スタッフと外国人スタッフが協働して教室を運営しています。

外国人児童の学習支援教室は、学びの場であるとともに、同じ環境の子どもたちが安心して過ごせる居場所でもあり、保護者にとっても様々な相談ができる場になっています。

■長期戦略計画委員会 伊藤勝人副委員長（寺子屋しんづでの活動）

安間利広さんの発案で学習支援教室に対するお弁当配りの事業を進める中で様々な気づきがありました。民生委員が主体になって活動されている寺子屋しんづの方からメンバーが話を聞く中で、子どもたちと一緒に活動、子ども達が心を開く活動が求められることを実感し、本年度展開している学習支援の活動が実現しました。

パワーには様々なバックグラウンドを持つメンバーがおられ、学習支援で先生として参加し、子どもたちと時間を共有する活動をする中で、受け入れられたな、心が通じたな、と感ずることができました。

貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちの明るい将来のためには、高校卒業の学歴が大切であり、また、パワーの広がりの中で雇用の可能性もあります。本年度の活動を通じて経験を積み、今後につながるような活動にしていきたいと考えています。

■加藤会長(社会奉仕事業の経緯)

パワー浜松 RC は安間利広さん発案で過去3年（2022-23年初年度）に渡り、浜松の学習支援教室にお弁当配りをしてきました。これにより、浜松にも経済的に恵まれない子供が多数いることが判りました。初年度たまたま寺子屋しんづにお弁当を持って行ったメンバーが伊藤さん、後藤さん？加藤夫婦であり、そこでしっかりした説明を受けました。伊藤さんのお嬢さんと先方の民生委員のお嬢さんが同級生でもあることから24-25長期戦略の伊藤さん、坂井さんが再度接触し、民生委員の方を招いて卓話して頂くこととなりました。今後クラブとして、貧困家庭の実態、本当に必要な支援とは何かを探る必要性を感じていた時期でもあり、また坂井さんの、「高校卒業の学歴は貧困の連鎖を止めるのに必要である。また財団を作り経済的基盤を作るとともに広く企業に参加してもらおう。広く知り合いの企業に参加してもらおうことによりパワー浜松の会員増強をはかる。」という構想や、原田さんの、「とにかく自分で稼ぐことが大事。」との感想も今後の指針となりました。

そこで、25-26では地区補助金を使って対象を絞り、特定の学習支援教室に対し深く支援活動を行うこととしたわけです。対象施設は卓話にも来て頂き、民生委員という公職にもついている方が参加している寺子屋しんづを中心に、まず会員に広く貧困家庭の実態について認識していただくことを主眼としました。（経営母体は ほなみ会）貧困家庭には、学習支援教室にすら出てこれない子供がいるとのことであるが、まずは出てきている子供から支援することを考えています。この経験を活かし、今後継続事業の機運が高まれば、長期戦略計画委員会として今後に繋げるような活動計画を検討したいと思います。

フィリピンナガイサ

- ・1994年に浜松近郊のフィリピン人女性たちが日本語や日本文化をまなぶ「互助会」として組織
- ・2012年 NPO法人設立
- ・現在は、南部協働センターほか市内数カ所ですべて日本語教室、学習支援教室、進路相談会、職業訓練などを実施するほか、各種イベントを開催している。

